リレーエッセイ

分析機器がつなぐ，人との輪

日本電子株式会社の佐藤 貴弥氏からバトンを引き継ぎました，微生物化学研究所の澤 竜一です．質量分析関係で以前から大変お世話になっております，佐藤氏と高橋 豊氏（エムエス・ソリューションズ/プレッパーズ/浜松医科大学）を通じて，本リレーエッセイのご紹介をいただきました．私が日本分析化学会に入会したのは，今から7年ほど前，コロナ禍が始まる直前のJASIS（記憶は曖昧ですが）で産業技術総合研究所の津越 敬寿氏から勧められたのがきっかけです．会員歴はまだ浅く，それまでは2006年に「ぶんせき」誌の解説を執筆したり，2008年頃から有機微量分析研究懇談会で時折発表したりする程度でした．そのため，今回リレーエッセイのご依頼をいただいた際には，私でよいのだろうかといささか戸惑いもありました．しかし，お二人にお声がけいただけたのは，後述する学会よりも小さなコミュニティでのつながりもあったからと考え，今回，そのコミュニティの活動についてご紹介させていただきます．

はじめに，私が所属する公益財団法人微生物化学研究会 微生物化学研究所（微化研）は，1958年に抗結核薬カナマイシンの収益を基に設立されました．1962年の研究所開設以来，微生物が産生する抗生物質などの生理活性物質の発見と創製を通じて，人類の健康と福祉，そして科学技術の向上に貢献してまいりました．私は1980年代後半に微化研に入所以来，一貫して新規生理活性物質の構造解析研究に従事してきました．それまでは抗菌物質の探索研究を行っており，NMRやMSは依頼して得られた結果を解析するだけでした．入所後は自身で最適なデータを取得する方法について，上司の指導を仰ぎながらも試行錯誤を繰り返しておりました．

入所翌年，上司の勧めで質量分析に関する合宿に参加する機会をいただきました．そこで自分の専門分野以外の研究や最新の測定技術に触れ，多くの方々と出会えたことに深い感銘を受けました．ただし，当時は参加の機会が5年に一度程度と限られていました．1990年代後半からはNMRに関するクローズドな勉強会にも参加するようになりました．東京近郊で開催されるため参加しやすく，技術面のみならず研究レベルも非常に高い場で，それまで質量分析が主であった私にとって，この勉強会は大変貴重な学びの場となりました．しかし，その後10年余り続いたその会も，合計70数回の開催をもって惜しまれつつ幕を閉じることになりました．このような勉強会の存続を切望した私と日本電子の朝倉 克夫氏が中心となり，新たな賛同者を発起人として迎え，2012年に『機器分析ユーザー会（JAIAN：Japan Analytical Instruments Active users Network)』を立ち上げました．

JAIANではクローズドな会とせず，NMRやMSなどの機器分析に携わる方ならどなたでも参加して勉強できるオープンな場を目指しました．また東京以外でも開催することで，より広い地域での交流を深めることを目標とし，ウェブサイトやメーリングリストを通じて活動の輪を広げてきました．設立趣旨には「NMR, ESR, MSのユーザー相互の交流を図り，情報交換を通じて参加者のスキルアップを目指し，同時に機器分析装置の発展を促す」ことを掲げています．現在では，X線・電子線回折をはじめ，幅広い機器分析の話題も採り入れています．

本会は年会費を伴わない非営利団体として活動しており，年1回の合宿形式のセミナー（夏：山中湖）および年2回のセミナー（春：東京，秋：大阪など）を開催しています．2012年8月の第1回合宿セミナー以来，2025年秋までに計35回のセミナーを開催し，延べ100名余りの先生方に恐縮ながら手弁当でご講演いただいており，大変ありがたく思っております．毎年夏の合宿セミナーでは，参加者全員からも活発に話題提供をしていただいております．2020年に始まったコロナ禍においては，一時中止やオンライン開催も余儀なくされましたが，対面での相互交流という本来の目的を重視し，現在は，実地開催のみで運営しております．このJAIANにご興味のある方はぜひご参加いただけますと幸いです．下記のURLから，これまでの開催実績やお知らせをご覧いただけます．

次回のリレーエッセイは，JAIANにもご参加いただいているオルガノ株式会社の高橋 あかね氏に執筆をお願いしました．高橋氏とは，超純水のお仕事だけでなく，テニスを通じた集まりでも15年以上前から大変お世話になっております．分析化学会の理事も務められ，テニスでもご活躍と伺っております．どうぞよろしくお願いいたします．

【JAIAN Webサイト】
https://sites.google.com/site/jaianmember/

〔微生物化学研究所　澤 竜一〕